

巨樹など 水墨画風に

吉本・名芸大教授 中区で個展



那智滝をモチーフにした油彩・テンペラ作品「岩窟」などを出展した吉本さん＝中区栄3のケンジタキギャラリーで

画家で名古屋芸術大教授の吉本作次さん(64)＝日進市＝の個展「素色、素描」が、中区栄3のケンジタキギャラリーで開かれている。巨樹などをモチーフに、滑らかな線と彩色を抑えた水墨画風の作品が並ぶ。23日まで。

学者の視点から古往今来のさまざまな絵画を研究し、自身の作風に応用してきた吉本さんだが、最近「隠遁的な趣を目指したい気持ちがあり、やわらかな南面の作風に向かっている感がある」と自己分析する。

展示は24点。和歌山県的那智滝を訪れたときに感じた霊気が創作の動機になっ

鉛で線描し、画面の下部などに生い茂る葉をつねるように描いた木々を配した。岩窟に隠れた聖人を漫画のタッチで描き入れた。油彩、テンペラで彩色されているがモノトーンに近く、墨絵のようにも見える。

吉本さんは「色は感情に訴え、目を奪う。見た目は地味だが、線や形において肌触りというようなものまで表現したい」と話した。

(小島哲男)